

【様式】 令和6年度 高志高等学校 学校関係者評価書

(問) ・アンケートの分析、学校の自己評価が適切であったか。 ・成果と課題を踏まえた今後の改善策・向上策が適切か。
(意見を聞いた方) PTA役員 5 名
○自ら学ぶ生徒を育てる ・対話的で深い学びを十分行っていると評価している生徒が大きく伸びている。先生方が主体的・対話的で深い学びを目指した授業意図を理解した成果であると思う。 ・課題研究や各種研修、コンテスト等の成果については、より多くの保護者が理解できるよう、今後も各種媒体を通じて広報して欲しい。 ・「探究創造科にふさわしい授業づくりや学習指導計画の作成に取り組む」の項目で、R4からR5の比較で教員の評価が急上昇しているが、これらはどのような改善の結果なのかを分析する必要がある。また、「検討する」ことは成果・結果ではなく、過程なので、この判断基準の適切さも今後の検討課題にするとよい。
○自ら考え責任を持って行動する生徒を育てる ・子どもがホームルーム活動・学校祭等に主体的に取り組んでいるかどうかについて、保護者には判断しにくい設問である。 ・子どもの病気や怪我への対応に「満足していない」と回答した保護者がいることは残念である。
○生徒の夢・希望の実現を支援する ・模擬試験の点数が重要なのではなく、何を間違えたのか・どこが苦手なのか等の分析を生徒自身が時間を空けることなく行うことが重要であると思う。そのため、模擬試験の見直しを生徒に強く働きかけて欲しい。
○豊かな情操の涵養 ・読書へのハードルが低い電子媒体での書籍を読む機会が増えている中、図書館だよりを電子化することは有効な手段であると考え。また、電子版・オンライン配信等が検討されているが、その場合、学校評価アンケート調査の質問項目もそれらに沿ったものに変更する必要がある。
○安心して学べる環境 ・「子どもの悩みや不安などに寄り添う学校の対応が不十分」と回答した保護者の割合が過去2年よりも増えていることについて、原因を十分調査した上で今後の対応に生かして欲しい。
○ICT活用の促進 「改善策・向上策」は概ね適切である。
○働き方改革 ・生徒を様々な面でサポートしていくには、教職員の心身の健康維持が重要であると考えるので、引き続き、働き方改革を進めていって欲しい。一方で、それらを名目にした過度な管理体制は、逆に教職員の負担増になるケースもある。時間管理等の表面的な部分だけでなく、「教育のしやすさ（働きやすさ）」という点での評価につながると、教育の質に寄与すると思う。
○総合 ・今後も生徒が意欲的にチャレンジでき、充実した学生生活を送れるようサポートを行っていくことで、学校に通うことが楽しいと感じる生徒を更に増やして欲しい。 ・昨年度は、生徒らの自己効力感（Self-Efficacy）のようなものが低いように感じられたが、今年度は「私が様々な場面で活動に参加することで、学校や社会を良くすることができる」とリーダーとしての社会貢献意識を持つ生徒が大きく増えたことは注目に値する。 ・この結果だけを持って、意欲的に取り組む生徒の姿がうかがえるとは結論付けられないと思う。生徒に対する設問の問いが非常に大きい（抽象度が高い）ため数値が影響を受けやすいので、もう少し身近で具体的なものがあると思う。
(学校関係者評価を踏まえた今後について) ・中高一貫校としての効果的な取組について、SSH等のこれまでの実績を生かし、今後も改善していく。特に、生徒の探究力や課題解決能力を高めるために意欲的にチャレンジできる取組を充実させていく。 ・生徒の主体的に取り組む姿勢、リーダーとしての資質の育成に努める。そのために自ら課題を設定し解決する力を育てる取組を充実させ、より一層充実した指導を企図していく。 ・自らの進路実現のため、生徒が自主的に目標を定め、行動する姿勢が重要であり、そのための支援や情報の提供に努める。進路指導を、PTA・保護者と連携しながら一層充実する。 ・学校生活がより充実したものとなるよう、面談やアンケートを実施し、生徒の悩みや不安などの早期発見・早期対応に努めるとともに、自尊感情、自己有用感の醸成に努める。 ・学校からの情報発信に学校ホームページやGoogle Classroomを活用するとともに、保護者への連絡文書のデジタル化やアンケートの電子処理化等の情報機器の活用を進め、発信側・受信側双方の利便性の向上に取り組む。 ・今後ともPTAとの連携を密にとりながら、学校運営をすすめていく。 ・社会に貢献するリーダーとしての意識に関する生徒の肯定的回答が急上昇していることについて、意欲的に取り組もうとする生徒の実態を把握するため、問いをより具体的なものにしていく。